

果樹カメムシ類による温州みかんの果実被害

果樹カメムシ類に吸汁されると、早期の着色ムラの症状(写真1)になるのが一般的である。しかし、2013年の秋季、県下の柑橘産地で、果樹カメムシ類が多発し、それに伴い温州みかんの各品種でそれまであまり知られていなかった症状(写真2～6)が発生した。ここでは、それらの症状と再現試験の途中経過を紹介する。



写真1 早期の着色ムラの症状



写真3 斑点状にやや窪む症状1
宮川早生(2013年11月中旬)

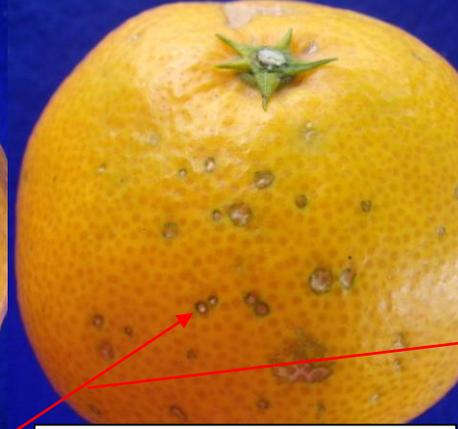


写真4 斑点状にやや窪む症状2
石地温州(2013年11月下旬)



写真5 斑点状にやや窪む症状3
南柑20号(2013年12月中旬)



写真2 褐色斑症状
上野早生(2013年10月下旬)

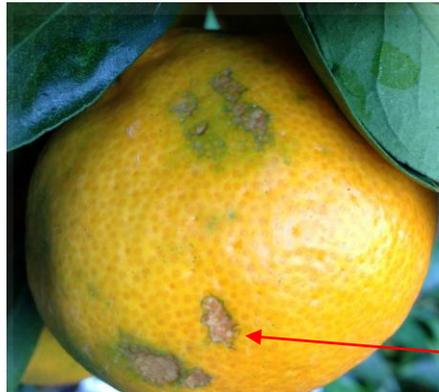


写真6 指で押したように広く窪む症状
宮川早生(2013年11月上旬)



写真7-8 再現試験
宮川早生(2014年9月中旬)



「同症状を確認」



・写真2～6の被害は全て、2013年秋季にカメムシ類が多発し、応急防除した園で発生

・写真2の「褐色斑症状」は既に報告があるが、写真3～6の症状は未報告

↓

・このため、再現試験を実施中

・その再現試験により、同症状を確認(写真7・8)

↓

・これらの症状(写真3～6)が、果樹カメムシ類に起因する可能性が示唆